

令和4年度 第2回 鳥取市総合企画委員会 議事要旨

日 時 令和5年2月9日（木）10：00～12：00

場 所 鳥取市役所本庁舎6階 会議室6-5～6-8

出席委員 岩田輝代委員、神田浩史委員、岸本夕子委員、佐々木千代子委員、下田敏美委員、西川功美委員、西川信彦委員、西原泰仁委員、長谷川縁委員、林由紀子委員、平井耕司委員、三木俊一郎委員、八百谷和子委員、山根滋子委員、吉田多恵委員、吉田高文委員、吉田正委員、米田恵子委員、若狭さつき委員  
（敬称略 50音順）

欠席委員 田中利明委員（敬称略）

鳥 取 市 市長・副市長ほか関係部局長、政策企画課、  
地方創生・デジタル化推進室（事務局）

<議事概要>

1. 開会

2. 市長あいさつ

【深澤市長】

このたびは委員の皆様の改選期に当たるところ、委員の就任に御快諾をいただき心より感謝を申し上げます。

鳥取市総合企画委員会は、鳥取市の条例に基づいた委員会で市の附属機関という位置づけである。本市のまちづくりの指針である鳥取市総合計画や鳥取市創生総合戦略について御審議をいただき審議会であり、大変重要な役割を担っていただいている。本日は第11次鳥取市総合計画、第2期鳥取市創生総合戦略の進行管理等、様々な御意見等いただきたいと考えている。

本日の議題は、鳥取市総合企画委員会の審議予定の御説明、第2期鳥取市創生総合戦略と地方創生推進交付金事業の評価方法、国のデジタル田園都市国家構想総合戦略を勘案した第2期鳥取市創生総合戦略の改訂等について、事務局より御説明を申し上げたい。委員の皆様の忌憚のない御意見を賜りたい。

御承知のように、人口減少や高齢化が少しずつ進んでいる。また、この数年来コロナ禍

にあり、ようやく国が2類相当から5類への見直し検討を、今、進めているということである。本日の会議もこのように少し距離を取り、密を避ける、手指消毒、検温等も実施をしている。また、コロナ禍に加え、国際経済の変動による様々な影響、物価高騰等大変厳しい状況があるが、市民の皆さんとともに明るい未来をこれから切り開いていくべく、しっかり我々も取り組ませていただきたいと思いますので、御協力、御支援を賜りますようお願いを申し上げます。

限られた時間であるが、皆さんの忌憚のない御意見を賜りたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 3. 出席者紹介

### 4. 委員長・副委員長選出

委員長を林委員、副委員長を平井委員とする事務局案に対し、各委員から異論がなかったため、事務局案のとおり委員長・副委員長を選出。

#### 【林委員長】

昨年11月1日から新しい任期がスタートし今日が初めての委員会である。再任の方が10人、新任の方が10人ということで、本日一人だけ欠席となっている。

本日は議事後、意見交換の時間が設けられている。特に新任委員の皆さまには、鳥取市のまちづくり等について御意見を一言ずついただけたらと考えている。意見交換のときには積極的な御意見をいただけたらと思う。

再任の委員の皆さまには、10月の委員会で御意見を頂戴したが、時間の限り再任の方々からも御意見を頂戴したいと思うのでよろしくお願いしたい。

#### 【平井副委員長】

先ほど市長からも説明があったが、この委員会は市の附属機関であり、各方面の見識ある方々で構成されている。鳥取市総合計画、第2期鳥取市総合戦略の考え方、進捗を十分把握させていただき、今後、鳥取市政に資するような評価、意見を述べさせていただきたい。

第2期鳥取市総合戦略は人がベースにあると思っている。総合戦略の3本の柱についてしっかり目標が達成できるように、各委員が力を合わせて責務を全うしていきたい。

## 5. 議事

### (1) 鳥取市総合企画委員会について

【上田地方創生・デジタル化推進室長】

資料1により、委員会の位置づけ、職務、審議予定等を説明させていただきます。

「1 基本的事項」を御覧いただきたい。総合企画委員会は条例に基づき設置している市の附属機関である。総合計画、総合戦略の審議を通じ、幅広い分野から市政に対して御意見をいただく場である。任期は令和6年4月30日までであり、委員構成については先ほど御紹介させていただいたとおりである。

次に「2 審議等の予定」を御覧いただきたい。今回が本日お集まりの委員の皆さまによる最初の委員会である。そして、令和5年度7月頃には委員の皆さまに総合戦略等の評価をお願いする予定としている。続いて、令和5年度第1回の委員会を10月頃に開催し、総合計画、総合戦略の進捗管理を行う予定としている。そして、令和5年度第2回の委員会を令和6年2月頃に開催させていただき、第12次総合計画の策定に向けた考え方などを御審議いただければと考えている。

新規委員もおられるので、第11次総合計画について少し説明させていただきます。第11次鳥取市総合計画の青色の冊子には第11次総合計画の基本構想と基本計画を掲載している。これは長期展望に立ったまちづくりの方向性を定める本市の最上位の計画である。その下に総合計画第2期実施計画があり、概要をまとめたパンフレットもお配りしている。

次に、鳥取市人口ビジョンの冊子について、これは本市の人口減少対策の指針となるものである。このビジョンでは市の将来人口の目標を定めており、この達成に向けた施策を取りまとめたものが第2期鳥取市創生総合戦略である。同じくそれらの概要をまとめたパンフレットを配布している。総合戦略に定めている施策は、最上位の計画である総合計画において、特に力を入れて取り組む重点施策として位置づけている。

資料についてもう少し内容を説明させていただきます。まず総合計画の概要版から御覧いただきたい。総合計画は本市の様々な計画の中の最上位の計画である。市民の皆さま、企業、団体、市が協力しながらまちづくりを進めていくための指針となるものである。この計画の理念、将来像については、左上に記載してとおりである。計画の構成と期間について、めざす将来像と目標を定めた10年間の基本構想、構想を実現する施策等を定めた5年間の基本計画、そして基本計画の施策に基づいて実施する事業を毎年度作成している実施計

画という3階構造となっている。

次に人口の長期展望のグラフを御覧いただきたい。鳥取市の人口は、平成17年に約20万人でピークであったが、令和2年には約18万人、令和12年には約17万人と、今後約1万人減少することが見込まれている。

施策の推進に当たっては、SDGsや、デジタルを活用した未来社会のことであるSociety 5.0などの新たな視点を取り入れて推進していくこととしている。

資料右側に体系を記載している。上部に将来像や理念を記載しており、その下に将来像を実現するためのまちづくりの目標を位置づけている。その右側に10の政策、35の施策を掲載しており、下部の土台部分に計画を推進する健全な行政運営など基本方針4つを定めており、健康、教育、福祉、経済などの分野を横断的に取り組んでいくこととしている。体系図の右側に重点施策という欄を設けている。これが人口減少問題の克服に取り組む関連施策、特に力を入れる重点施策として、総合戦略の施策としても位置づけられているものである。

次に、第2期鳥取市創生総合戦略の概要版をご覧いただきたい。総合戦略は人口の減少問題を克服し、地方創生を推進するため策定している。人口に起因する様々な問題に対応するための施策を位置づけている。計画期間は総合計画と一体的に作成しているため5年間としている。その下に戦略を進める基本姿勢や行動指針を定めており、戦略の方針として人口の減少を目標人口までに抑えていくよう目指すこととしている。さらに一番下、戦略の柱として、ひとづくり、しごとづくり、まちづくりの3つを位置づけており、柱ごとに施策を定めている。ひとづくりでは結婚・出産・子育ての希望がかなうまちづくり、しごとづくりでは稼ぐ地域・仕事と安定した雇用環境づくり、まちづくりでは4つの目標を定め、その中に施策を位置づけて進めている。

## ○議題1について質疑応答

発言なし。

### (2) 第2期鳥取市創生総合戦略と地方創生推進交付金事業の評価の実施方法について

【上田地方創生・デジタル化推進室長】

資料2-1を御覧いただきたい。第2期鳥取市創生総合戦略と、この戦略の一部に国の地方創生推進交付金を活用しており、令和4年度の事業完了後、委員の皆さまにこの実績

に対する評価をお願いしたいと考えている。本日は評価方法の概要を説明させていただき、具体的な作業内容については7月頃に改めて御案内させていただきたい。

まず資料の一番下、赤枠部分を御覧いただきたい。委員の皆さまに施策の指標の達成度を、AからDまでの4段階で評価いただく作業となる。

続いて2ページには評価シートの記入例をつけている。上部に紫色の枠で囲っている部分に基本目標を記載している。その下に緑色の枠で基本目標の指標を記載しており、この例では移住定住者数としている。その下に令和3年度の数値を青色で示しており、目標値480人に対して、実績は462人で達成率96.3%との記載があり、さらにその下に担当部局でこの実施状況を自己評価している。下の青色の枠が総合評価欄となっており、達成度に応じAからDまでの4段階で評価を記入いただくこととしている。評価に際して御意見等があれば、赤枠にコメントを記入いただくようにしている。

3ページを御覧いただきたい。先ほどの紫色の基本目標を達成するために取り組んだ重点施策を評価するシートである。一番下に同じように青枠、赤枠があり、先ほどの説明と同じ要領で委員の皆さまに評価をお願いする作業となる。

4ページを御覧いただきたい。施策を推進するために実施している具体的な事業の内容と成果を記載している。こうしたものも参考に評価いただければと考えている。

続いて、資料2-2を御覧いただきたい。先ほどの資料と同じく一番下に赤枠で囲っており、委員の皆さまには、この交付金で実施した事業が有効だったか、または有効ではなかったかといういずれかの評価をお願いしたい。

2ページには記入例をつけている。上の紫色の枠にこの交付金の事業名称を記載しており、下の黄色の枠に実施した事業の実績を記載している。

4ページを御覧いただきたい。緑色部分に交付金事業の達成度を評価する指標を設定している。先ほどと同じく担当部局で自己評価を実施しており、一番下に記載している。

5ページを御覧いただきたい。下部の青枠の評価欄に1番か2番のいずれかで評価いただき、御意見等があれば、赤枠に御意見をいただきたい。

最後に、資料2-3を御覧いただきたい。委員の皆さまが所属しておられる団体等をもとに、ひとづくり、しごとづくり、まちづくりの区分で評価の担当を割り当てさせていただいたので御確認いただきたい。

評価作業は今年7月頃を予定している。具体的な内容は改めて御案内させていただく。

## ○議題2について質疑応答

発言なし。

### (3) デジタル田園都市国家構想総合戦略を勘案した第2期鳥取市創生総合戦略の改訂について

【上田地方創生・デジタル化推進室長】

資料3-1を御覧いただきたい。「1. 経緯」について、国は、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略を抜本的に改訂し、デジタル田園都市国家構想総合戦略を策定した。その中で地方公共団体は国の戦略を勘案して、地方版総合戦略、鳥取市でいうところの第2期鳥取市創生総合戦略を改訂するよう努めることとされている。

「2. デジタル田園都市国家構想総合戦略の概要」「(1) 全体像」については資料3-2を御覧いただきたい。国のデジタル田園都市国家構想総合戦略の概要をまとめた国作成の資料である。上部に基本的な考え方が記載されており、主なものに黄色でマーカーをしている。順に御覧いただくと、「今こそデジタルの力を活用して地方創生を加速、深化し、便利で快適に暮らせる社会を目指す」、「東京圏への過度な一極集中の是正や多極化を図り、地方に住み続けながら、都会に匹敵する情報やサービスを利用できるようにする」といった内容、またこれまでの地方創生の取組についても、蓄積された成果、知見に基づいて改善を加えながら推進していくというようなことが示されている。

その下に、総合戦略のポイントが記載されており、地方は社会課題等を踏まえ、ビジョンを再構築して総合戦略を改訂することが示されている。

その下に、施策の方向ということで、左側の赤枠の中に、デジタルの力を活用した地方の社会課題の解決としてデジタルの力を活用して地方に仕事をつくる、人の流れをつくるなどの4つの取組が示されている。

右側にデジタル実装の基礎条件整備として3つの柱があり、デジタル基盤の整備や、これらのデジタルの取組を国が強力に推進して下支えするというような立てつけの戦略となっている。

再度、資料3-1を御覧いただきたい。2. (2) のとおり国の総合戦略の計画期間は令和5年度から令和9年度までとなっている。

「(3) 法律上の位置づけ」であるが、国の総合戦略は、「まち・ひと・しごと創生法」という法律で定められている「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を変更したもので

ある。デジタルという名前ではあるが、これまでの国の総合戦略と法律上は同じ位置づけである。「(4) 施策の方向」だが、資料3-2にあった国の総合戦略の方向性を整理し記載している。「ア：デジタルの力を活用した地方の社会課題解決・魅力向上」は、これまでの国の総合戦略と同じ考え方であり、地方版総合戦略で引き続き求められる取組である。デジタルの活用という視点が加わったことがポイントである。次に、「イ：デジタル実装の基礎条件整備」は、国の総合戦略で新たに加わった考え方であり、国が推進して地方のデジタル化を下支えするということである。

次に、2ページ上部「3. 第2期鳥取市創生総合戦略の改訂について」について説明する。中段の「Society 5. 0とは」を御覧いただきたい。Society 5. 0は説明・イラストのとおりだが、国が目指しているデジタルを活用して、課題解決が図られた未来社会の姿のことを言っているものである。

次に、「3(1) 改訂の考え方」を御覧いただきたい。第2期鳥取市創生総合戦略だが、地方創生の施策にSociety 5. 0の視点を取り入れ、Society 5. 0社会の早期構築に取り組むということとしている。国のデジタル総合戦略を先取りした内容であると考えている。このため、第2期鳥取市創生総合戦略の改訂については、現行の立てつけを基本とし、国の総合戦略との関係の記載を整理し、あわせてデジタルの施策を引き続き積極的に位置づけていきたいと考えている。少し別の言い方で紹介させていただくならば、市の戦略をフルでモデルチェンジするのではなく、マイナーチェンジというイメージだと思っている。

「(2) の改訂の時期」だが、第2期鳥取市創生総合戦略は当初予算編成で新旧施策の入替えを毎年4月に行っており、直近の改訂で上記「(1) 改訂の考え方」に対応していきたいと考えている。

3ページ以降については、国の地方創生の取組の経過を記載しているので、お読み取りいただきたい。

### ○議題3について質疑応答

【西川功美委員】

デジタル田園都市国家構想総合戦略は大変多くのメニューがあるようだが、鳥取市としてメニューを全部実施されるということなのか。また、考えてやっておられるかもしれないが、地域によってニーズが異なっているため、それぞれの地域にあったメニューをどの

ように設定していかれる予定なのか。できれば中山間地域の声を聞いていただきたい。構想をマイナーチェンジするに当たり、地域の声も聞いていただけたらと思うがいかがだろうか。

【林委員長】

メニュー全てを取り組むのかということについて、地域に合ったメニューにすべきだという御提案、それから、中山間地域の意見も聞いてほしいといった御要望であるが、市側の御回答をお願いできるだろうか。

【上田地方創生・デジタル化推進室長】

国の総合戦略は大変多くのメニューが記載されている。国の総合戦略のメニューについては、国の政策でデジタル田園都市国家構想を推進するために考えられる施策メニューを全部リスト化しているものである。それに対し、地方の実情は御指摘のとおりいろいろである。都市部もあれば中山間地、離島などもある。国もこのメニュー全部を使うということは基本的には考えておられない。このメニューを参考にしながら、地域の実情に応じて活用していったらどうかというような内容のものである。鳥取市も創生総合戦略を推進するに当たっては、地域の皆さまの声、従来だと地域づくり懇談会や地域審議会といったところで日々御意見をいただき、それをもとに施策を構築し、総合戦略の目標に向かって取り組む事業を予算化している。このメニューや国の施策を有効に活用して、引き続きデジタルを活用しながら鳥取市の総合戦略を推進していきたい。

【林委員長】

施策の方向として、結婚・出産・子育ての希望をかなえるということが書かれているが、デジタルとどう結びつくのかイメージが湧かない。デジタル自体は良いと思うが、悪用されるような事件等も出てきているので、デジタルの力が悪用されないような工夫も必要なのかなという気がしている。結婚・出産・子育ての希望をかなえるということについて具体的にどんな取組を想定されているのか。

【上田地方創生・デジタル化推進室長】

デジタルは手段であると考えている。従来の施策に取り組むに当たりデジタルを使って

いくということであり、例えば昨年度導入した母子手帳アプリは、妊娠された方、子育て中の方がいつでも、どこでも鳥取市の子育て情報にアクセスできて、さらにオンラインでの子育て相談、例えばコロナ禍でなかなか外出や従来の健康部門に相談に来にくいといったようなニーズに対応するためにオンラインでの相談を受け付けるなどで子育ての支援を充実していくというようなものであり、そうしたことにデジタルを活用していくというようなイメージで取り組んでいる。

【平井委員】

デジタル構想の推進はもう待たなしということで、この方向的には賛成である。先ほど西川委員からも御意見があったが、鳥取市もかなり広範囲で、地域課題が多々あると思うので、特に市内の各中山間地域も含めたメニューを一度整理していただいた後に、総合戦略の内容を決めていただくようなことはできないだろうか。今の改訂の時期は4月ということであるが、それまでにもう一度、そうしたメニューが我々の目に触れるようなタイミングがあるのだろうか。

【林委員長】

メニューを整理して、もう一度、4月の改訂までにお示しいただきたいということだがその辺りはいかがだろうか。

【上田地方創生・デジタル化推進室長】

この改訂に当たり、御意見があった中山間地域、中心市街地にも着目して、施策を少し見やすいようにメニュー化し、年度内に委員の皆さんに報告させていただきたい。

## 6. 意見交換

【林委員長】

新任委員を中心にぜひ御意見を出していただけたらと思う。委員の皆さまから、鳥取市のまちづくりについて等、それ以外のことでも結構なので一言ずつ御意見を頂戴したい。その後、前回からの委員の方々にも時間の許す限り御意見を頂戴したい。

【岩田委員】

市政がどうなっているかは、新聞紙上で少し見る程度で、詳しく首を突っ込んでというようなことがあまりなかった。

私は、書をやっていて、やはり書くことに一生懸命で、そっちのほうはほかの方にお任せであった。良い勉強させていただくつもりで、今後の会議にも臨ませていただけたらと思っている。

#### 【岸本委員】

事前に書類を読み、ぼんやりと把握はしていたが、意見を述べるほど今までの経緯等が理解できているわけではなく、意見や質問をできるまでの情報が絞れていない。

委員の半数が再任ということなので、逆に、再任されている方が前年の任期の中でどういう思いを持っておられたのか、課題や質問など、一緒の立場でおられる方がどういう思いを持っておられるのかを先に聞かせていただければ、参考にさせていただきたいと思う。

#### 【佐々木委員】

新市域の人たちは、割とほったらかされているという意識がすごく強く、私自身はそうでもないが、鳥取市は中心市街地ばかりで、という声をよく聞く。多分、市がこういうことをやっているとか、こういうことで市にお世話になっているというのが伝わっていないのだろうなというのをすごく感じる。

地域振興会議も、今回で一応区切りということで、審議会でもこの会をどうするかというような話合いがあり、鹿野地域の会では、やはり地域の意見を市に伝える良い機会だから新地域の意見を持っていける場所が欲しいというような意見が出た。できること、できないことはあるとは思いますが、偶っこのほうでも声が伝わる、それがちゃんと実行できるかどうかは別として、そういう機会、システムは残してほしいと感じている。

#### 【西川信彦委員】

国際交流をする中でいつも思うのが、情報がうまく入ってこないということである。ホームページを見ても分かりづらく、外国人にはさらに分かりづらい。個人的に尋ねられたりはするが、こちらからも説明しづらかったりと、制度のことなどが難しくと感じることがある。デジタル化を進める中で、ホームページをもう少し簡単に分かりやすくしていただけると、もっと住みやすくなるのではと感じた。

ボランティアで外国の方たちの支援をしているが、ボランティアでは限界があると思っている。専門的な方を配置されているが、臨職の方であるなどですぐに職員が代わっていくため、継続して支援をしていくようになっていないように思う。ある程度の予算を組んでいただき、外国の方と地域の方とがもっと住みよい形になったら、鳥取市がもっと住みやすくなるのではと感じている。

【林委員長】

国際交流でも意見が入ってこないということか。

【西川信彦委員】

情報は出ているがそこにたどり着かないということがよくある。結局、市役所に電話をしたり直接行ったりして説明を受けると分かるが、コロナ禍で基本的にデジタルで発信してくださいという風潮のなか、発信の仕方がちょっと何というか。僕たちのほうに、民間の関わっている人たちに情報を流してほしいと依頼が来るが、自分が知っている人だけにしか発信できないので、つながっていない人たちには情報が届かない。その人たちには市役所から見てくださいという情報は行くが、きちんと届いているのかまでは分からない。やはり分かっていない人たちのほうが多い。口コミで、鳥取市はこういうことをしているというのが伝わっていくが、それがホームページなどではっきりと分かるようになっていればより良いのではないかと思う。欲しい情報にたどりにくいので、その部分を整理していただくとか、もっと分かりやすく簡単にしていただけると良いと思った。

【林委員長】

鳥取に住んでおられる外国の方々が、市のホームページがなかなか分かりにくいというようなことだろうか。

【西川信彦委員】

それもあるが、鳥取市に住むということに関してどうなのと質問を受けたときに、僕がサーチするが結局分からず市役所に来て聞いて、ここに書いてあるよというのを教えてもらう。段階が多過ぎて、問題があったらすぐ行けるような仕組みになれば、情報がごちゃごちゃしているのでもう少し届きやすいようになれば良いと思った。

【林委員長】

デジタル化がもう少し進んでいないといけないということか。

【西川信彦委員】

そうかもしれない。

【林委員長】

市民の皆様が分かりやすいようにというような意味合いだろうか。

【西川信彦委員】

僕が分かりにくいだけなのかもしれないが。

【林委員長】

また担当課からお話ししていただけたらと思う。

【西原委員】

今日の話聞き、こうした計画を目指していかなければ、本当に鳥取市は今後厳しい状況が来てしまうのだなと痛感した。基本的に我々は、経済団体、経営者の集まりの団体であり、その視点で一番悩むところは仕事である。やはり、人材がなかなか確保できないということや、外国人労働者を雇わなければ仕事がやっていけないというような状況に直面しておる。特に仕事に関しては、学生の意見を聞く機会等もあり、会社として、企業として変わらなければいけないところ、DXといったことも取り入れていきたいがなかなか予算が組めないこともある。そうしたところで、鳥取市の支援や協力が今でもあるのも承知しているが、もっとあればと感じる。

ひとづくりについて、実際に人口が、子供たちの人口が減っている原因が、結婚する人が本当に少なくなっているのか、結婚はするが子供を出産する人数が減っているのかといった具体的なポイントがどこなのかが知れると、対策がもう少し具体的に出していけるのではと思った。

まちづくりについては、駅に降りた瞬間のにぎやかな雰囲気というところで、小さい町

でも活気があると感じる町がすごくあって、大分駅周辺も最近にぎやかになってきたのかなとも思う。見た目だけではなく人がにぎわう、イベントという言い方が合っているか分からないが、活気づいた雰囲気が見えるような駅周辺の雰囲気を考えてつくっていききたいと思った。

#### 【長谷川委員】

私は、昨年6月に千葉県野田市から夫婦で移住してきた。2月に娘一家が東京から智頭に移住してきており、コロナ禍で海外出張や出勤をしなくてもリモートワークで仕事ができるということもあって移住が早まり、娘一家が移住してきたので、私達も定年を機に移住してきた。

4月にお試し暮らしをし、6月に移住してきたが、鳥取に来て駅の活気のなさやシャッター商店街の寂しさに少し驚いた。

先ほどもおっしゃったように、地方だから活気がないとか、交通の便が悪いから活気がないとかそういうことではなくて、人の覇気がない。私は山口県下関の出身で中国地方はいろいろ詳しく分かっているとは思いますが、鳥取県の方は、よく言えば奥ゆかしい方が多いのかなと思う。移住してきてすぐ移住者の会、町なか観光ガイドに入っていていろいろな方と接する機会もあるが、そういう会などに積極的に出られている方は、やはり鳥取市を何とか活性化しようという強い志を持った方たちなので覇気も活気もあるが、パートで勤めたりしているところとかは、全体的にまず、おはようございますとか、お疲れさまですとかそういう挨拶をされない方が多いなというのをすごく感じている。移住を考えてこちらに來たりしている友人がいるが、鳥取県って挨拶しない人が多いよねというのをすごく言っていた。身内とかも、私が鳥取に移住してから遊びに來たりしたが、ホテルの対応や、本当に鳥取へようこそみたいなそういう思い、ハートの部分で課題があると思う。私も鳥取に來た以上は、本当にみんなに愛される、みんなが住んでみたいなと思える鳥取市になってほしいという思いでこの会に参加させていただいている。観光ガイドも4月から頑張っていて、少しでも鳥取市の魅力を発信できるように頑張っていきたいと思っている。

#### 【林委員長】

活気がないとか、挨拶しない町とか、外から見られる鳥取はそういうふうに見られているのかなというのは、言われてみたら何か納得するような、でも中にいると分からないこ

となのでありがたい御意見だった。

#### 【八百谷委員】

私は、流しびなの里の用瀬町に住んで33年になる。地域に協力したいと思い、お雛さまコンクールを平成22年から5年ほどさせていただいた。コロナになって3年間流しびな行事そのものができなくなり、昨年は一念発起して、YOUTUBEでお雛さまコンクールの模様を全国中継するという形でトライさせていただいた。結果は、700名程の方に見ていただいた。お雛さまコンクールを今年もやってねと言ってくれるが、今年は幸いにも現実の流しびな行事が行われるということで、予算はなくYOUTUBEは開催できない。でもイベントは開催できるということで、今年は、去年1年クラブハウスやメタバースといったところで知り合った方にリアルに来てねとお伝えしている。ただ、全くお金にもならない、お雛さまに込めた愛情をみんなに、次世代に伝えたいという思いだけでボランティアをやり続けると、27年経つと応援してきてくださった70代の方がもう亡くなっているという現状で、続ければ続けるほど誰もいなくなっている。お雛さまは、クリスマスがあり、お正月があり、節分があって、やっとおひな様である。作品募集をするにしても1か月ない状態で、ツイッターで朝から晩まで募集してねみたいな感じで、寝ないで2か月くらいやるが思いだけでは続けられない。せっかく用瀬に良い文化があるからどうにかつながらないかなと非常にあがいている。そういう思いで文化に携わっている方はたくさんいらっしゃると思う。せっかくデジタルがすばらしくなった時代なので、文化のことに支援がつながるようなことは何かできないのかなと思っている。

鳥取駅前に店舗を7年間持っていた。それまでは、NHKの文化センターや大学で朗読などをさせていただいていたのでリアルでお客様ができたが、コロナになりリアルのお客様がゼロになって、家賃をずっと払い続けてもどなたもお客様が来てくださらないので撤退した。去年の秋もまちゼミで商工会議所に参加させていただいたが、また店舗を持つかという家賃分がどうしても出なくて、シャッター街だから安く貸して下さったら良いがそういうわけにもならず、思いがあってもなかなかつながらないかなというところがある。

ストアカというポータルサイトで、全国に60万人の会員があるところで私が講座を持っているが、ビジネススキル部門の全国1位、自己啓発部門の全国1位を昨年9月から四、五回取らせていただいて、今も10位以内にいる。メタバースでの司会ということで、世

界とつながることもできている。個人的にはデジタルを活用できたら活路は見いだせると思っているが、リアルで、鳥取でやろうと思うと、非常に難しくなっていると思っている。

もう一つの意見として、私たちの町にも素敵な女性が地域おこし協力隊に来られ、とても用瀬は良いからと協力隊の期間が終わっても住んでくださっているが、その方の思うような給料の仕事がなかなかない。もし良ければ、ふるさと納税でたくさん全国から御支援がいただけたら、その費用の中で地域おこし協力隊で住み続ける方、文化を頑張りたい方、仕事を頑張りたい方に、何か御支援していただくような予算をつけていただけたら、志があって鳥取を元気にしたいと思っている人たちは非常に喜ぶのではないかと考えている。

#### 【平井副委員長】

各委員の方々からいろいろな地域課題も含め、もう少しにぎわいのあるまちづくりをしようということが大きなテーマであったように感じている。

私が委員就任のお話をいただいて最初に率直に感じたのが、新任委員が令和4年度の課題を評価するのはどうかと率直に思った。年度年度の事業であるので、年度の委員の方の評価が最適な評価ではないかと思う。令和4年度事業も次回7月に評価されるので、それが終わってから新しい委員の方々の任期に変更したほうがいろいろな御提案も含めて施策に反映できると思うし、皆さま方に一つ気づきをしていただければ、それが一番良いことであるので、年度年度で委員の任期を変更することを一度御協議いただけたらと思う。

また、評価シートを見るといろいろなKPI、いわゆる数値目標があって、その数値目標の達成率を評価するということだと思うが、政策の中で、この施策を実施して、こういった成功事例があったからこういう評価の達成ができたとか、逆にこういうことができなかったから達成しなかったというような、具体的なものが分かるような資料を頂くとか、内部評価の中にそういった具体例をいただくと良いのかなと思ったのでできれば改善していただきたい。

#### 【吉田高文委員】

6年前から八頭町の総合戦略策定委員の委員長をやっている。八頭町の場合ははっきりしており、目標は人口減をいかに食い止めるかということで、全ての施策が人口減対策に収斂していく立てつけで考えている。それと比べると鳥取市の創生総合戦略はかなり明るい展望がある。本日伺ったところでは、DX、Society 5.0、将来的にはGXな

ど、そういう方向でのまちづくり、しごとづくりが課題になっていることが十分分かった。

配付されている鳥取市人口ビジョンの9ページ、10ページに人口移動の推移がある。9ページの図表8は男性の推移であり、学齢期の男子については本学の男子学生が入ってきたことによる影響が読み取れるのかと思う。ただ、全体的な数自体は鳥取大学のほうがはるかに多いので、環境大学の影響は微々たるものかもしれない。一方、10ページの図表9は女性のグラフになっていて、こちらはあまり人口増には効いていないという感じに見えるが年々女子学生の割合は増えており、全体的には3割強ほどだが、直近の2020年の国勢調査を見ると、違った傾向が出ているかもしれないと思った。こういった点で、大学としては地域に貢献していけたらと考えている。

#### 【若狭委員】

新市域居住者としては、福部地域は鳥取市の東の果てという意識がないとも言えない。まちづくり協議会や地域振興会議で福部が活性化するような何かを探してはいるが砂丘以外には見つからない。砂丘に関しては、市役所の皆さまもいろいろ手を尽くしておられるが、そこに住んでいる人たちに関しては少し足りていない感じがする。

福部はらっきょう産地だが、人材不足で、高齢化でやめていく方々が多く、次の代になくということがうまくできていないと感じている。農業に関してはそういうことが多いのかもしれないが、特にらっきょうは鳥取の特産物であるので、ぜひ残していかなければいけないと思っているものの、うまくいっていないことに歯がゆさを感じている。

まちづくりでもしごとづくりでもひとづくりでも、崖っ縁だという感じがする。地域に住んでいる私たちも本当に何とかしたいとは思っているがなかなか思いつかない。ここにいる皆さま方に何かしらきっかけとかお知恵をいただけたらと思う。福部に住んでいる私たちも頑張るので、皆さんと一緒に、鳥取市と一緒に頑張りたいと思う。

#### 【三木委員】

再任であり、若干去年からの流れを酌んでいると思っているので、経験者として今の思いを語らせていただきたい。

デジタル田園都市国家構想について、鳥取市の創生総合計画をマイナーチェンジしていかれるということである。日頃、銀行で業務に携わっていると、まさに地元のお客様たちと接しているわけだが、事業承継の問題である働き口が少なくなってくるという中で、

銀行としても積極的に取り組んでいるが、行政、県、市も積極的に取り組んでおられる。しっかり手を携えてやっていかないと働き口がどんどん減っていくことになると思うし、若者が帰ってこないというようなことにならないように、今まで以上に力を入れていく必要がある。

それから、その中で生産性向上を考える必要があると思う。人口減少の中で、いわゆる手でやっていたことをデジタルの力で解決していくということだろうと思うので、我々としてデジタルリテラシーを高めていかないといけない。行政がいろいろな施策を打っていくことも当然だが、市民、住民がリテラシーを高めて、デジタルを積極的に活用していくことをやっていかないといけない。今日の日本海新聞にもマイナンバーカードの普及率があったが、まさに一丁目一番地なのかなと思う。米子市を例に例えると、少し遅れていたと思うがこのタイミングでぐっと上がってこられた。鳥取市の延びの状況は、全国平均はクリアしておられたかと思うが、少し遅いのかなというふうに思っているので、もう少し力を入れてやっていく必要があるのかなと思っている。

まちづくり、しごとづくりの分野では、多極ネットワーク型コンパクトシティということで大きな地方創生の柱を上げていらっしゃる中で、鳥取駅前の活性化、中山間地域の中心部の活性化をやっていかないといけないと思う。私自身も中山間地域から通っている人間であるが、個人的感覚としては行政の財源をべたっと広いエリアに充てていくのは非常に難しいと思う。鳥取を元気にするためには、鳥取駅前あるいは中山間地域の中心部といったところに積極的に財源を充てていき、多極ネットワークコンパクトシティをしっかりと実現していかないといけない。一集落にまできちんと落とすといこうとするのは難しいのではと思っているので、もう少し色づけをしっかりとしながらやっていく必要があるかと思う。その中で鳥取銀行は、鳥取の駅前に本店を構えているので、デジタルの力を活用してしっかりとやっていきたいと思っている。銀行としては、地元なので鳥取市と一緒に手を携えて、皆さんと一緒にやっていきたいと思っている。

#### 【米田委員】

長谷川委員のお話をお伺いして、挨拶をしない人が多いような気がするということを知った。ずっと学校教育に関わってきた者として、何か責任を感じるというのでもないが、子供だけの問題ではなく、もっと広い大人も含めて鳥取市民がもっと心を前に向けるというか、心を開くというか、そういったことが必要だったのだなと目からうろこが落ちたよ

うな気がしたのでありがたかった。大人にも、県外からいらっしゃった方がそういうふう  
に感じていらっしゃるんだということを保護者や、おじいちゃんおばあちゃんの世代まで  
お伝えする機会があったら、伝えていってもらいたいと思った。

新市域の方から、新市域に元気がないというような深いお悩みがあることも伺った。私  
も実家が新市域にあり行くことがあるが、地域の名前が掲示してある看板があり、地域名  
と地域の伝統芸能や特産物といったイラストが描いて有ったりするが、古くなって消えか  
かっていることが気になっている。そういうところをリニューアルするようなことも、少  
しでも新市域に目が向いているということを伝える助けになるのかなと思う。

#### 【神田委員】

前回の委員会が初出席で、今回で2回目の出席となる。次回以降に向けた要望としては、  
具体的なロードマップ、できれば直近一、二年の目標や事例といったメニューを提示いた  
だき、学ばせていただきながら議論できたら良いかと思う。ロードマップについても、鳥  
取市版の課題や強みを反映したようなものと大変ありがたい。

例えば課題だと、鳥取県内の学校を卒業した学生の地元定着率をもっと高めていけない  
ということや、強みでいうと、鳥取市のアプリが登録者目標を大きく超えて活用されてい  
るというようなことがあった。そうした課題の解決や強みの最大化といったところを委員  
の中でも協議させていただけたらと思った。

弊社日本海新聞では、鳥取未来創造プロジェクトとして新聞紙面と冊子を作成し、高校  
1、2年生に配らせていただいている。その中で、高校生から出た質問を鳥取県ゆかりの  
著名人の方に質問を投げかけるという企画を行い、去年大ブレイクされた女優で鳥取銀行  
のCMでもおなじみの松本若菜さんに、米子に帰省したいと思うことがあるかという質問  
を投げかけたところ、「いつも米子に帰りたいたいと思っていて、女優の仕事でなければ、米  
子から通いで仕事をしたいぐらい、米子で仕事をしたいぐらいだ」という回答があった。  
まさにこういう声は、デジタルを使って全国で、世界で仕事ができるような道筋になっ  
ていけるのではないかと考えているので、少しずつでもそうした取組が鳥取市の中から、  
我々市民の中から広がっていけたら大変いいなと思っている。

#### 【林委員長】

再任の一人として発言する。昨日新聞記事で、トスクが今年の8月をもって閉店される

ということが掲載された。鳥取市社会福祉協議会は、合併した地域を中心に介護保険事業をやっており、特に佐治や用瀬は、食材を当地のトスクから購入していたということがかなり大きな衝撃になっている。特に佐治は、なかなか遠い地域なので、食料を買い出すのも、デイサービスセンターなどの食材購入をこれからどうしていくのかということがある。中山間地域は高齢者が非常に多く、車を持っていない方や、町まで出られない方々がたくさんいらっしゃるなか、トスクはそういうところを拠点にして、販売や販売車も動かしてやっておられたので、非常に中山間地域にとっては大きな打撃になるんだろうなと思っている。これについては、何らかの対応を考えていただいたほうがいいのかなと思う。こういう拠点がなくなると過疎化が一気に進む可能性もあるので非常に心配しているところである。

【深澤市長】

各委員の皆さまから様々な御意見をいただいた。大変示唆に富む御意見もいただき感謝申し上げます。

DXの推進についてもう少し活用できるようにということで、具体的にはYOUTUBE等で八百谷委員もいろいろ発信をしておられるということである。これについては、国もデジタル田園都市国家構想を策定されたということだが、国が方針を打ち出される前に鳥取市はそうしたことは既に総合計画や創生総合戦略に取り入れており、改めて変えていくところはあまりないのかなと思う。何よりもやはり、このデジタル化がさらに進んでいくことにより、人口減少や少子高齢化が進んでいる中で、市民の皆さまの利便性が確保されることが肝要だと思っている。デジタル化が目的ではなく、厳しい状況の中で利便性が今までと変わらない、むしろ向上するというようなことに我々は意を用いていきたいと感じたところである。

また、鳥取市は平成16年11月に9つの市町村が合併してから20年近く経過し、その間に様々なことがあった。合併の翌年の国勢調査だったと思うが、鳥取市は平成17年が人口のピークで、20万1,740人ということで、この2005年から現在まで、残念ながら人口が減少し、あわせて高齢化も進んでいるという厳しい状況がある。そうした中で、限りなくデジタルの技術、ICT技術も活用しながら、しっかりと市政を進めていくということが、今、さらに求められていると思っている。

課題は山積している。八頭町は人口減少を最大のテーマにしておられるとのことだが、

人口減少をできる限り減少しないようにというようなことも施策として必要であるし、市域全体の活性化、特に中心市街地のにぎわい創出も大きなテーマである。来年度から第4期中心市街地活性化基本計画がスタートする。これは鳥取市だけではなく事業者の皆さま、経済界の皆さまとしっかり連携をさせていただきながら、にぎわいを創出していくというような取組が必要であると考えているところである。

また、長谷川委員は県外からお越しいただいたということで、県外から鳥取にいらっしゃった方の視点から、挨拶も少ないのではないかと、少し活気がないのではという御指摘もいただいた。ずっと地元にいると、そういったことに気づきにくいといったことがあるので、そうした御指摘、感じられたことを基に、我々も改善を図っていかないといけないなと改めて感じたところである。

新型コロナウイルスも3年経過して、感染陽性の件数が少し減少してきているようにも見えるところであり、国が2類から5類に変えていこうと具体的な検討を進めておられるところである。そうしたことも注視しながら、市民の皆さまの健康を守っていくことも引き続きやっていかないといけない。物資高騰、円安の急激な進行、国際経済の変動が直接鳥取の経済、暮らしにも影響が及んでくるといった厳しい状況があるが、鳥取のたくさんある良さ、潜在力、ポテンシャルといったものをいま一度みんなで共有しながら進んでいくことが大切ではないかなと思っている。

平井副委員長からも御指摘をいただいた。評価等についても、再任の委員方からまず評価をいただくべきではないかというような御意見である。評価シート、KPIの達成率についてもやり方、進め方をもう少し工夫したほうが良いのではとの貴重な御意見もいただいたので、その辺りも次回までに検討させていただきたいと思っている。

今日は本当に素晴らしい御意見をいただいたことに、重ねて感謝申し上げたい。

## 7. その他

(事務局より事務連絡)

## 8. 閉会